



■第52回沖縄県学校ダンスフェスティバル

21日(日)、嘉手納文化センターでダンスフェスティバルが開催されました。高校15校17チームが出演。読高ダンス部は、『春夏秋冬～日本の四季～(純白な世界が時と共に鮮明に染まり変わっていく。君の瞳の中で・・・)』をテーマにしたダンスを披露していました。白をベースに淡い緑、青、黄色、ピンクなどを配した袖衣装でのパフォーマンス。衣装、ダンスともテーマに沿って上手く表現されていました。

「今回、初めての創作ダンスに挑戦。みんなで良く頑張っていました」と顧問の新城先生から職員会議で報告がありました。演技が終わった後、達成感あふれるダンス部皆さんの笑顔が印象的でした。ご苦労様!!



■読高生が拾ったサイフ、無事持ち主へ!!

21日(日)、2年8組、名城琉来君と安富祖匠平君は帰宅途中、道端に落ちていたサイフを拾いました。運転免許証等の情報から無事に持ち主に届けることができました。持ち主の方が、23日(火)「2人にお礼がしたい」と学校に来ていました。

2人の行為は、当たり前のこととは思いますが、他人を幸せにしたとても尊い行いです。嬉しく思います。

■『みやざき中央新聞』が保健室に!!

前回の校長だよりで、「みやざき中央新聞」編集長の書いた本『日本一心を揺るがす新聞の社説』を紹介しましたが、なんと保健室の宮城康代先生は『みやざき中央新聞』の定期購読者でした。「一人だけで読むのはもったいないので」と、



保健室に来室した皆さんが読めるよう自宅から持ってきて保健室に置いています。皆さん、保健室を訪ねる機会があったら、是非、新聞を手にとってみて下さい。「読んで良かった」と思える話しで一杯です。また、『日本一心を揺る

がす新聞の社説』の最初に紹介されている社説は、食肉加工センターで牛の屠殺をしている坂本さんという方の話です。殺される牛と目が合うたびに「いつかやめよう」と悩む坂本さんですが、小学校3年生の息子のぶ君に「心の無か人がしたら、牛が苦しむけん。お父さんがしてんなっせ」といわれます。我々は普段、美味しく食事ができる裏に、坂本さんのような方々がおられることや命を頂いていることなどあまり意識しませんが、しかし、感謝の気持ちをけっして忘れてはいけません。坂本さんのこと『いのちをいただく』という絵本になっていることが社説で紹介されていました。そして、その絵本も保健室にあります。

■2月の行事

2日(金)3年生を送る会 推薦入学内定者リエンション	11日(日)建国記念の日
5日(月)あいさつ運動2-12 授業：月の1234,金5	12日(月)振替休日
6日(火)あいさつ運動2-34 授業：木の561234	13日(火)3年生進学準備期間
7日(水)あいさつ運動2-56 授業：金の1234 月56	14日(水)学年末考査
8日(木)あいさつ運動2-78 授業：火の124356	15日(木)学年末考査
9日(金)あいさつ運動2年希望者 3年大清掃・ワックス作業	16日(金)学年末考査
	17日(土)cut-早期対策2年
	18日(日)cut-早期対策2年
	21日(水)統一LHR(歌練習)
	28日(水)卒業式場作成
	卒業式予行
	生徒会卒業式レコー予行

★本の紹介コーナー★

書名：「母から子への手紙」
著者：猪苗代町絆づくり実行委員会

福島県猪苗代町で400字で綴る「母から子への手紙」コンテストがある。2009.11.11付け読売新聞に、同年の入選作品に「君がくれた光」などが1105編の応募の中から決定とあった。審査員の一人、芥川賞作家・玄侑宗久氏が「起こったことのごさぎだけではなく、言葉を選び取った無駄のない文章と展開が見事だ」とコメントしている。――



◆【大賞】「君がくれた光」野沢顕子

ママが「耳下腺癌(がん)」という聞きなれない病気で手術を受けたのは、君がまだ五歳の頃だったね。癌と一緒に、耳と、顔の神経を切ったその日から、ママの耳は一つになり、顔の半分は動かなくなった。手術後一カ月が過ぎても、ママは退院するの怖かった。杖(つえ)を突かなきゃ歩けない、こんな体で君を守る？私が母親でござめんね……。でも君は「ママ!」と、抱きついてくれたね。

「ママ、早く帰ろう!」
君は、ひとかけらの疑問もなく私を信頼してくれる君のままだった。君にとって私は、ちゃんと「ママ」だった。それに気づいた時、ママの心に光が射(さ)したんだ。見た目や出来ることが変わっても、君の母親でいたい!私は、君の信頼に応えたいと思っただ。君がくれた光に導かれて、ママは今日も生きる。できないこともあるけど胸を張って。そしてこの暖かい光で今度は君を包みたくて、毎日君を抱きしめる。ありがとう。ママは君といられて、今日も心から幸せです!

◆【準大賞】「出世払い」石墨玲子

先日はありがとう。三十そこそこの身にはあまりにも大金であろう六十万円。
『出世払い』ということでオヤジに借りていた車の修理費だけど、出世もしてないのに返すのは違反かなあ……。だなんて。思い出しました。お前が学生のころ、雪道でスリップして車を大破させたこと。事故のショックで落ち込むお前に、何も言わずに修理費を用立ててくれたお父さん。あのときの感謝の気持ちを律義に持ち続けていたんだね。

お父さんが白血病に倒れ、収入も絶たれての入院生活を見兼ね、「借金返済」とか言いながら、さりげなく金銭の援助をしてくれるお前の気持ちは、身に染みます。面と向かっては何も言わなくせに、しっかり分かり合っている父と息子の関係だよ。今回も仲立ち役、しっかり務めさせてもらいました。――

※前回校長だよりの「みやざき中央新聞」は「みやざき中央新聞」の間違いでした。訂正致します。